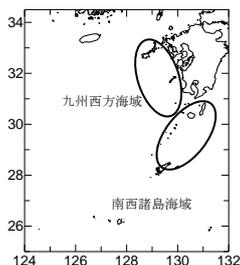


南西諸島及び九州西方海域における小型船を用いた近海かつお釣り 漁業操業システムの開発



調査船：第五松徳丸（総トン数 19ト）
調査期間：周年
調査海域：南西諸島海域及び九州西方海域

1. 調査のねらい

南西諸島海域や五島沖の九州西方海域及び宮崎沖海域の近海かつお一本釣り漁業において、以下の項目に従い、19 トン型かつお一本釣船の効率的な操業パターン及び漁獲物の販売単価の向上を追求する。

- (1) 効率的な操業パターンの追求
- (2) 販売単価向上の可能性の検討
 - 1) 短期航海で生産したカツオの市場評価を把握する。
 - 2) 製品の鮮度と品質分析について、長崎大学、長崎県水産総合試験場と共同で解析を行う。
- (3) **収益性**の改善の可能性の検討
- (4) 餌（カタクチイワシ）の生残率向上についての検討
餌の生残率の向上に適した飼育環境について志布志栽培漁業センターの協力を得て検討する。

2. 主な成果など

- (1) 効率的な操業パターンの開発
短期航海の実施による生産性を検証
南西諸島は 2-3 日、九州西方は 1-2 日が効果的(図 1)

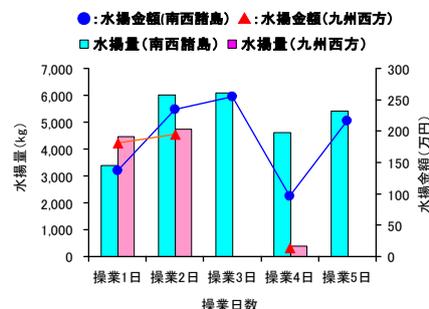


図 1 海域別・操業日数別 1 航海当たりの漁獲量, 水揚げ金額

- (2) 市場評価
同じ日に水揚げされた他製品よりも高価格
高鮮度製品として市場評価も高い(図 2)

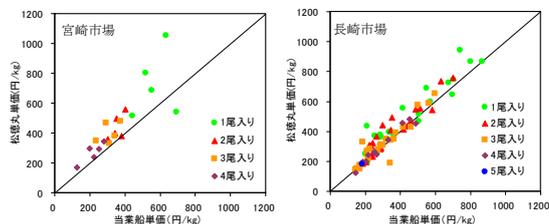


図 2 各市場における銘柄別の第五松徳丸と当業船の価格比較

- (3) 製品の品質分析
鮮度管理には初期冷却が重要
- (4) 採算性の改善の可能性

- ・ 従来船よりも収益性が改善されている。
 - ・ この成果が、近海かつお・まぐろ地域プロジェクト改革計画策定の基礎となった。
- 平成 22 年 6 月に開催された中央協議会で 19 トン型船 2 隻の建造が承認された。

- (5) 高水温時のカタクチイワシの生残率向上について志布志栽培センターのタンクテストにより死亡要因と改善方法が明らかになりつつある。